

スポーツ科学コースの特色 ～スポーツV～

保健体育科主任 関根 悟

1 スポーツVについて

学習指導要領に定めるスポーツVは、野外活動と位置づけており、具体的な内容としては(1)自然体験型野外活動の理解と実践、(2)競技型野外活動の理解と実践、としている。(1)については、キャンプ、登山、遠泳等の水辺活動、(2)についてはスキー、スケートから取り上げるものとしている。またこれらは特定の時期に、集中して授業を行うことができるとされている。

2 本校におけるスポーツVの取り扱いについて

平成26年度に、茨城県に於いて全国高等学校体育学科・コース連絡協議会が行われた。本校は幹事校としてその責を全うした。その際に、①「アスリートの育成」 ②「地域との一体化とリーダーの育成」③「体育教員・スポーツ指導者を目指す人材の育成」 ④「スポーツを科学する」というスポーツ科学コースの4つの柱を大義名分に全職員が尽力して成功に導くことができた。この年に、スポーツ科学コース(5組)の教育課程をマイナーチェンジし、3年次にスポーツ総合演習を組み込み、指導者としての資質を養う内容での授業を1単位設置した。それから増単位として1単位、1、2年次にはそれまで学校行事としての位置付けであったスキー実習を、3年次には新たな内容としてスケート実習を教育課程に組み込んだ。

3 スキー実習(1・2年次)

1・2年次では3泊4日で、山形県蔵王市にあるライザワールドでスキー実習を行っている。ここ3年間は、1月第3週で行っている。原則として1年次ではSAJスキー検定4級、2年次ではSAJスキー検定3級の取得を目指し、ほぼ全員が検定に合格することができている。過去にはスキー実習を通してSAJスキー検定1級に合格する生徒もいた。



4 スケート実習(3年次)

3年次では、笠松運動公園スケートリンクにて、11～12月のなかで3日間設定させていただいて、行っている。午前は専門のインストラクターに講習していただき、午後はリンク内でフリー滑走を行っている。3日間の講習の過程で、ほぼ全員が基本的な滑走技術を身に付ける事ができている。



5 成果と課題

(1) 成果

スキー実習，スケート実習とも技能の取得という点では，その成果を十分に果たしており，本質的な目的は達成できていると考えられる。

また，スキー実習は宿泊を伴う活動であり，3泊4日の活動の中で，団体での集団活動や，クラスメイトとの普段と違う関わりを持つなかで，規律の遵守や人間関係の構築といった効果も生まれている。

スケート実習に関しては，学校生活最後のクラスでの活動ということもあり，より友人との親睦を深め，高校生活の思い出として活動を楽しむ姿も見られる。

この様な点からも，スポーツⅤの実習は一定の成果を上げていていると考えて良いであろう。

(2) 課題

課題としてまず挙げられるのは，経費負担が大きいことである。スキー実習については1回につき，56,000円経費がかかる(令和元年度実績)。また用具レンタルとして8,000円(個人で用具を持参する生徒は別)かかる。また2～4日目の昼食代がかかるので，これは5,000円程度になるであろう。また飲み物代やおみやげ代等でいくらかのお金を持ってくるので，少なく見積もっても1回でかかる費用は7～8万円くらいになるであろうか。

スケート実習では，3日間の活動で9,000円徴収している。

また，最近では部活動の遠征試合や合宿等を行う部も増えてきており，保護者に係る費用は増加の傾向にあるのではないだろうか。

授業と部活は別という考えもあるが，それは学校運営上の立場での意見であって，実際に負担がかかる生徒や保護者の立場を無視して論じるのは安易であろう。

また，他の学校行事との関わりも考える必要があるように思われる。特に2年生は5月に遠足でTDL，10月に修学旅行(近年はUSJがトレンドか)，そして1月にスキー実習と，これも経費面での負担は大きすぎるのではないだろうか。前述したが，これに部活動の遠征合宿などがあつたりもする。年間を通じてこれだけの活動を行う必要があるかどうかの一考の必要があるように思う。

全くの私見であるが，これらの事情を鑑みて，例えば1年次ではスキー実習，2年次ではスケート実習，そして3年次では希望者で行っている富士山登山ボランティアをスポーツⅤのカリキュラムとしてはどうかと思う。3年次で全員履修が望ましいのであれば，経費を抑えられる近郊での登山，キャンプなども一案であると思う。